

(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所  
「首都圏“待機児童”レポート」

調査結果から見えてくること

保育園を考える親の会 代表 普光院 亜紀

この調査でも、厳しい保育園事情が明らかになりました。数年前まで、首都圏であっても「育休明けなどのフルタイムはおおむね認可に入園できる」と言われていましたが、この2〜3年で状況は悪化しました。この調査は、2009年4月入園に向けて首都圏の認可保育園に申請した母親を対象としていますが、4月時点で、認可保育園へは、産休・育休明けの人で約半数(52.7%)、求職中の方では2割弱(16.8%)しか入園できていません。また、認可・認可外その他の預け先を見つけられなかった方の半数以上(56.1%)が、仕事や再就職を断念していました。

認可保育園は、本来であれば、保護者が求職中でも短時間勤務でも入園できる制度なのですが、待機児童が多いためにフルタイム優先になっています。しかもこの調査では、入園申請時点ですでに母親が就労している家庭の認可入園率が高く、待機が蓄積していることがうかがえます。求職中でも短時間勤務でも、いつでも保育園に入れるように、さらに、保育園が在宅子育て支援や養育困難家庭の支援などの役割を担うゆとりがもてるように、十分な保育園を整備することが求められています。

<プロフィール>

フリーの編集者・ライター。1993年より、「保育園を考える親の会」代表。

保育園を考える親の会 <http://www.egg.org/oyanokai/>

調査についての詳細は、「子育てトレンド調査 第一回 首都圏“待機児童”レポート」  
をご覧ください。ベネッセ次世代育成研究所のウェブサイトからダウンロードできます。

ベネッセ次世代育成研究所 ウェブサイト <http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/research/>

問い合わせ先 **03-3295-0294** (10~17時 \*土日祝日と平日 12~13時除く)

調査担当：高岡・持田